

## 水道財政のあり方に関する研究会（第3回）

### 1 開催日時等

- 開催日時：平成30年6月12日（火）17:00～19:00
- 場 所：総務省601会議室
- 出席者：石井座長、有田委員、石井委員、石田委員、是澤委員、関口委員、西田委員、星野委員、望月委員  
小倉大臣政務官、大西公営企業担当審議官、藤井公営企業課長、本島公営企業経営室長、伊藤準公営企業室長、松尾課長補佐 他

### 2 議題

- (1) 団体ごとの水道事業の経営状況の分析について
- (2) 水道事業の持続的な経営を確保していくための課題等について
- (3) その他

### 3 配布資料

- (資料1) 団体ごとの水道事業の経営状況について
- (資料2) 水道事業の持続的な経営を確保していくための課題等について

### 4 概要

- (1) 事務局より資料1及び2について説明。
- (2) 出席者からの主な意見
  - 資料を見ると、料金が平均以上でありながら、料金回収率が100%に満たない団体を中心に、何かしら考える必要があるとは思いますが、何をすべきかは引き続き検討が必要である。
  - これまで漠然とした印象は持っていたが、一人当たりの管路延長、資本費などこうした数値根拠や分類による分析は経営において有効である。
  - ある一定の広域化をしていくことは、総体として水道料金の上昇を均等化し、小さい団体の料金高騰を抑えるメリットがあるが、大きい団体にとってはあまりメリットがないことをどう考えるか。
  - 様々な指標の中で条件の悪い水道事業者を特定しつつ、人口が減っていく中で、どういう単位で支えていくのか、広域的な視点も含めて検討が必要である。
  - 経営状況を分析する際には、水源の違いによる影響も考慮する必要があるのではないか。
  - 料金を軸にした分析は需要面からの視点になるが、経営を分析するに際

しては、供給サイドからの供給原価の分析も必要になる。

- 高料金対策の交付税措置は、仮に事業統合して、資本費が下がると措置に該当しなくなるため、広域化を後押しするような形を考えていく必要がある。
- アセットマネジメントを充実するにしても、マンパワーが不足しているという声が多く、その対応としても広域化は効果があるのではないか。
- 広域化を進めるにしてもマンパワーの不足がネックになっているとの見方もあり、重要な課題として取り上げるべき。